

4月9日の入学式から間もなく1か月が経とうとしています。新入生はそろそろ学校生活に慣れてきたように感じます。連休明けにはクラブ活動への参加も見られることでしょう。自分に合ったクラブ活動に参加し、充実した学校生活の一部に加えて欲しいものです。

先日4月22日(月)、オンラインでの全校集会が行われました。内容は「校則変更」のことについてですが、いよいよ30日から「頭髪」と「スマホ」の2点について変更されます。高校生徒自治会長から、これまで伝えてきた変更点を改めて確認し、説明。生徒支援部長からは、「協創生として自覚を持って変更内容を受け止めて欲しい。君たちのことを信じているから」と伝えました。協創生なら大丈夫だと私は確信しています。

(右の写真は、高校1年生のオリエンテーションの様子)



## 「だから、協創からはじめよう。」

4月10日(水)～16日(火)の間、宿泊研修(中学1・2年生)やオリエンテーションが行われました。新入生、在校生共に新学期、そして、新年度を迎えるための”いい準備”のための1週間を過ごしました。

この期間、各学年で「校長講話」の時間もありました。本校の建学の精神と教育目標についてはそれぞれの学年を通じて丁寧に話す機会でもあります。学校の体を為すものなので、年度初めとして欠かせないものです。そして、高校生と中学生では若干話す内容に変化を付けました。発達段階が違うので興味や関心が異なるのは当然のことですが、毎年話さなくてはならないこと、社会変化に応じて話しておきたいことなどについて、限られた時間で取り組んでみました。

高校生では、「無知の知」という言葉について触れました。「この言葉は誰が言った言葉ですか？」と生徒に問うと、残念ですがなかなか答えられません。高校3年生がわずかに反応しますが、手が上がりません。仕方なしに居合わせた社会科の先生に求めると、「ソクラテスです」と即答(当然ですが)。「無知の知」とは、自分に知識がないことに気づいた者は、それに気づかない者より一歩前進することだと伝え、何が知らないことか、今、何を知るべきかについて気づいて欲しいと訴えました。そして、気づくことが知ることに繋がり、知ることで自分の立ち位置を理解し、将来への見通しがクリアになっていくと続けました。では、どうやって気づきを得るのか。目的意識を持って他者と対話する、深みのある読書の習慣、社会変化にアンテナを張るなどの行為によって得られるはずだと結びました。

この後、「言霊」について触れました。良い結果をもたらす言葉、その逆の言葉があります。言葉には力が宿ると信じ、この1年間、できるだけ前

向きな言葉を発することを意識しましょうと話しました。終いは、昨年から生徒に伝えている「8つのマインドセット」(羅針盤 vol.69)の確認をしました。

中学生には、建学の精神「報恩感謝・実践」が利他の心を示すものであり、他者へのリスペクトを大切にするという意味でもあることを伝えました。生徒にそのことを表す言葉を挙げてもらうと、「ありがとう、おはよう、こんにちは、いただきます…」と続けました。とくに、「ありがとう」とは「有り難い、有るのが難しい、滅多にないということから来てるんだよ(諸説あり)」と説明すると必死にメモを取っている姿が印象的でした。さらには、それらの言葉には力が宿るという「言霊」に繋がって、前向きさを生む言葉であることを高校生と同様に話しました。

次に話したのは、「8つのマインドセット」について。中学生には時間をかけて説明しました。その中でも、「いい準備をしよう」については時間を割きました。何事も準備が良ければいい結果が得ること、ほぼ成功(勝利)間違いなしであることについてサッカーの場合と絡めて話しました。しっかりと顔を上げて聞いてくれていました。とくに1年生は、残り7つについても真剣に聞いて、メモを取っていました。立派でした。

高校生、中学生ともに締め括りに話したのが「だから、協創からはじめよう。」ということについてでした。「今年の本校のキャッチフレーズだよ」と前置きし、友だちや仲間と共に協力し合っ、これまでの価値を見直したり、新たな価値を創造したりすることで自分自身をさらに磨いていこうと。「だから」と、何かの折に「協創」を意識し、それを実践できるようにするフレーズであることを伝えました。

生徒のこの1年の成長がとても楽しみです。